

# 全電源喪失の記憶

証言 福島第一原発

## ■第2章「一号機爆発」

「アスク着けろ」。3月12日午

後3時36分、福島第一原発一号機の

原子炉建屋が爆発した。中央制御室

は激しい揺れに襲われ、天井の照明

パネルが外れた。

当直長の伊沢郁夫(52)がとさに

全面アスクの着用を指示した。伊沢

も運転員たちもまだ何が起きたのか

は分からなかった。

作業管理グループの大野光幸(51)

は「後になって建屋の水素爆発だと

聞きましたけど、この時は格納容器

自体が爆発したと思います。」「こ

れでもう終わったと覚悟しました」

と振り返る。

暗闇での計器復旧や、原子炉建屋

## 最期の写真



1号機原子炉建屋の爆発後に撮影された中央制御室内。運転員は仮照明を頼りに作業に当たった(2011年3月12日(運転員提供))

# 死を覚悟した制御室

ても行

たに手

ったと

大野

族に伝

ても爆

指輪で

るつか

大野

田が声

に写真

大野

放

とどな

分から

い性格

明るく

う限界だった。

また制御室には応援も含めて約40

人の運転員がいる。中でも若手の運

転員は精神的にきりきりの状態だっ

た。伊沢はベトナムを残り、免震重

要棟への退避を決断した。

「ご苦労さん」「早く行けよ」。

若手に声をかけながら送り出してい

たのは大野だった。伊沢、大野、放

射線管理を担当する保安班の住吉康

(一43)ら約10人が制御室に残った。

大野と同じ高校の後輩で、かつて1